

授業の趣旨

歴史を学ぶとは、現在を知ることにはかならない。本授業では、世界各国・各地域における多言語・多文化化に至る道筋を歴史的視点から捉えようとする試みである。そもそも「近代」という時代を考えた場合、国民国家の成立と民族問題は密接不可分であり、さまざまな対立・抑圧がマイノリティに加えられる場合が多々あったことは周知の通りである。また移民を迎え入れる場合も、さまざまな規制があったことも歴史的事実である。ここでは、世界各国・各地域のうち、多言語・多文化がすでに前提とされている社会についても、そこに至る経緯 諸矛盾や試行錯誤の過程 について検討していきたい。そして、そのような歴史過程(社会的変動)を見ていくなかで、多言語・多文化社会化にともなう問題について、受講者がさまざまな角度から考えていく姿勢を獲得することを目標とする。

<1 学期開講>

週	日付	題目	講師
1	4/12	ガイダンス(授業の狙いと方法—対象地域)	野本京子(東京外大)
2	4/19	日本における多言語・多文化社会の歴史(1)	米谷匡史(同上)
3	4/26	イギリスにおける多言語・多文化社会の歴史 日本との比較の視点から	佐久間孝正(立教大学)
4	5/10	日本における多言語・多文化社会の歴史(2)	野本京子(東京外大)
5	5/17	インドネシアにおける多言語・多文化社会の歴史	青山 亨(同上)
6	5/24	マレーシアにおける多言語・多文化社会の歴史	左右田直規
7	5/31	日本における多言語・多文化社会の歴史(3)	河路由佳(東京外大)
8	6/7	ブラジルにおける多言語・多文化社会の歴史	鈴木 茂(同上)
9	6/14	ロシア・東欧における多言語・多文化社会の歴史	篠原 琢(同上)
10	6/21	アメリカ合衆国における多言語・多文化社会の歴史	佐々木孝弘(東京外大)
11	6/28	カナダにおける多言語・多文化社会の歴史	大岡栄美(明治学院大学講師)
12	7/5	フランスにおける多言語・多文化社会の歴史	工藤光一(東京外大)
13	7/12	講義のまとめ	野本京子(同上)

備考 7/19 予備日

1. 事前に各講師が推薦した関連論文を必ず読んでおいてください。内容を十分、理解するとともに、疑問点や興味を感じた点を書き止めておき、授業のなかで質問すること、積極的、主体的参加を期待します。
2. 毎回、授業に関するコメントシートを記入。授業評価は 出席(出欠はコメントシートの提出で確認)と コメントシートの充実度で行います。

